



どうじゃったかな？
突然、家族全員のいのちを奪われたちづこさんの悲しみや精神的なショックは、言葉にできないほど大きかったはず。ちづこさんは、いのちは奪われなかったが、平和に暮らすという権利を奪われたんじゃ。

そんなことがあったんだね。



被爆した人の中には、戦争が終わった後も偏見を恐れ、被爆したことを隠し続けた人もいたんじゃ。

知らなかったわ。



次は「沖縄戦」について考えてみよう。
なぜ戦争が「最大の人権侵害」といわれるか、よく分かるはずじゃ。

「沖縄戦」とは

沖縄諸島に上陸したアメリカ軍とイギリス軍を主体とする連合軍と日本軍の間で行われた国内最大規模の地上戦。第二次世界大戦末期の1945（昭和20）年3月26日に始まり、地形が変わるほどの激しい空襲や艦砲射撃が行われたため、「鉄の暴風」ともいわれます。

3か月にわたった戦いの戦死者は約20万人にのぼり、子どもからお年寄りまで約9万4000人（当時の沖縄県民の4分の1）の一般住民も犠牲になりました。



生きる権利

はなしの話



沖縄戦の悲劇

「ガマ」での集団自決

「この世の地獄を集めた」とも表現される沖縄戦では、数多くの悲劇が起こりました。その一つが、沖縄で「ガマ」と呼ばれる自然洞窟での集団自決です。

アメリカ軍の攻撃が激しくなると、日本兵が一般住民に変装して攻撃することもあったため、アメリカ軍は一般住民も攻撃するようになりました。当時の日本では、「アメリカ兵は残忍で何をするか分からない」「捕まるくらいなら自決しろ」「国のために死ぬことが名誉なこと」と教えられていました。

逃げ場を失いガマに追い詰められた人たちは、自分の子どもや家族を刃物で刺したり、石などで殴ったり、毒を注射したりして仕方なく殺し、自決しました。なかには強制的に自決させられた人もいました。

沖縄戦の悲劇は、いのちを奪い、生きる権利を奪ったということじゃよ。

